

令和7年度版山口市環境概要(案)に係る事前質問及び回答票

No.	委員	ページ	内 容	対 応 (回答)	担当課
1	福浪委員	P3	字句修正希望です。市の動き8行目「山口グリーンエネルギー株式会社」のグリーンのンが抜けています。	誤記につき修正いたします。	環境政策課
2	福浪委員	P11	④森林・農地の保全、活用でそれぞれ交付金を出しておられますが、どういったことに使用されているのでしょうか。農業関係のことなので環境政策課ではわかりづらいかもしれませんが。進行管理表や評価の中でも特に触れていないので、参考数値ととらえれば良いのかもかもしれませんが、特に中山間地域直接支払い事業や多面的機能支払い交付事業には多額の交付金が使われていてこの交付金を申請する団体が多くなることが環境への良い影響を与えるという認識で良いのでしょうか。	中山間地域等直接支払事業については、傾斜地など条件不利な中山間地域で農業を継続する農家に対し、農地の維持や管理のための支援を行う制度です。農業を継続することにより、生物多様性の保全や二酸化炭素の吸収など、環境へ良い影響を与えています。(農業振興課) 多面的機能支払交付金事業については、地域住民や農業者が共同で農地、農業用水路や農道等を保全管理する活動を支援する制度です。農村環境の保全活動を通じて、水質保全や生態系の維持に寄与しており、環境へ良い影響を与えています。(農林整備課)	農業振興課 農林整備課
3	福浪委員	P26	エ、家庭系及び事業系ごみの組成分析・搬入物検査のところで紙類が年々減少しているのは、紙を使わない連絡手段が増えていることや、家庭でのDMなども減っているのが影響しているのかもしれないと思いました。反対に木・竹・藁が増えているのは何故か、厨芥類が極端に減っているのは何故かと思いました。すべてのごみを検査しているわけではないのでたまたまかもしれませんが。	令和6年度は54,925トンのごみの搬入量がありましたが、前年度より約1,690トン減少しています。これは、社会情勢による物価上昇等の影響により、商品の購入が控えられたこと等で、減少していると考えられます。 木・竹・藁類の搬入量は、社会情勢等の影響を受けにくいと、ごみ組成分析の結果、その割合が増加していると考えられます。 厨芥類は主に食料品であり、廃棄される食料品の搬入量が減ったため、ごみ組成分析の結果、その割合が減少していると考えられます。	環境施設課
4	福浪委員	P39	主な取り組みの、②熱中症対策の啓発を市民、子どもたちにも行っていますが、近年の暑さでは空調を使用しないわけにはいけないので、そういったことも啓発の中に入っているのか。クールシェアなどの情報は？空調を推奨していくならCO2の増加も視野に入れていけないのではないか。	市民に対して、市報や市ウェブサイト、市公式SNSを通じて熱中症予防に関して空調使用や適切な温度設定などについて啓発を行っています。(健康増進課) 学校現場では、熱中症対策を始め適切なエアコンの使用についての指導を行っています。また、省エネや環境への影響についても、授業等を通して考える機会を設けています。(学校教育課) クールシェア(スポット)の情報については、市ウェブサイトを通じて周知を行い、また、各施設(公共・民間)へは、スポットであることがわかる表示を行い、気軽な利用と熱中症への注意喚起を図っています。なお、涼しく過ごすには空調機器の使用が不可欠ですが、機器の更新時などにおける、省エネ家電の導入促進や再エネ電力の利用によるCO2排出抑制への取組についても引き続き周知に努めてまいります。(環境政策課)	健康増進課 学校教育課 環境政策課
5	福浪委員	P44	環境保全活動(イベント)の参加者数がエコパークまつりの廃止により目標数値を下回る実績が続いています。この計画の間は目標数値も変えられないと思いますが、次の計画の際は目標を見直した方が良いと思います。イベントへの参加が環境保全活動にはならないと思います。	指標については、次回の計画策定時に見直しを行います。 イベントへの参加と環境保全の関連性についてですが、干潟耕うんや、カブトガニ調査、クリーンキャンペーンは環境保全活動そのもの、また地球温暖化対策地域協議会との連携によるイベントは、環境保全活動ではないものの、参加者の意識啓発を行うことで、間接的ではありますが環境保全に繋がるものであると考えております。	環境政策課